

近畿農政局 | 菓子類輸出の課題解決に関する相談会の開催

近畿農政局管内のGFP登録菓子事業者に輸出に関する課題についてのアンケートを実施し、より具体的なテーマ（賞味期限延長への対応、品質管理・認証取得への対応、販路開拓や商社等とのネットワークづくり）を設定した上で、テーマごとに専門家への相談を行うグループ相談会を実施

主な実施概要

■ 実施概要

- 昨年度の取組との継続性を加味し、菓子事業者を対象とした、より具体的な課題解決のためのグループ相談会を開催

■ 実施期間・場所

- 2024年10月22日(火)@京都会場、10月23日(水)@兵庫会場、10月24日(木)@大阪会場 | テーマ：賞味期限延長への対応、品質管理・認証取得への対応、販路開拓や商社等とのネットワークづくり

主な実施事項

菓子事業者向け ニーズ調査

- 管内のGFP登録菓子事業者に対して輸出に関する課題解決のニーズ調査を実施
- 3つのテーマを設定し、専門家を選定

相談会

- 事業者が複数テーマについて相談できる時間枠を設定
- 1対1ではなく、グループ相談会を実施。他社の課題と対応に関するアドバイスも学習機会とする仕掛け

希望者への 個別支援

- 農政局がフォローアップを進める中で、希望があった事業者に対して輸出専門人材派遣を実施

実施結果

■ 参加者事業者数

- 相談会参加者：23社
(京都・兵庫・大阪会場の合計)
- 事業者毎の相談内容と専門家からのアドバイスを議事メモとして整理

■ 参加者の参考度

- 専門家からの個別課題へのアドバイス(賞味期限延長に向けた添加物変更や品質維持のアプローチ、認証取得方法論、販路選定の方法論や継続取引へのポイント等)に加え、事業者間の課題と対応への取組の参考度が高かった



主な成果/改善点

【主な成果】**グループ相談会**は、専門家によるアドバイスに加え他社の課題と対応を通じた学習機会も提供

- グループ相談会では、事業者間の課題対応への理解を高め、より能動的な討議機会を誘発。特に、販路開拓や商社等とのネットワークづくりのテーマは、輸出先国や販売チャネルの違い等があるため、複数の専門家からの情報提供が有意義（競合関係を考慮した専門家・グループ設定）
- **グループ相談会での宿題**（国別のハラール認証機関と特徴、グルテンフリー認証に関する基礎情報、JFSやISO22000の要求事項等の提供等）に対して個別に対応することで、事業者へのきめ細かな支援を実施。希望者へは、輸出専門人材との相談機会を再度設定しフォローアップを実施

「菓子類の輸出に関する課題解決のための相談会」の紹介



- 近畿農政局では、管内の菓子類の輸出に取り組む際の障壁となっている課題を解決するため、「菓子類の輸出に関する課題解決のための相談会」を開催。
- 「菓子類の輸出に関する課題解決のための相談会」は、令和6年10月に3会場（京都市、神戸市、大阪市）で対面により開催し、計23事業者が参加。
- 相談会后、参加事業者は輸出に取り組み、農政局は輸出を実現するための情報提供やマッチング等フォローアップを実施。

◆菓子類の輸出に関する課題解決のための相談会

【令和6年10月22日(火) 京都(A)、10月23日(水) 兵庫(B)、10月24日(木) 大阪(C)】

菓子事業者による輸出の取組を拡大するため、事業者への事前アンケートで把握した共通の課題をテーマに、専門家からの助言や同様の課題を抱える事業者とのグループ討議を行う等、課題解決に向けた相談会を実施。

相談会開催後、参加事業者に当初の課題解決や輸出の実現に向けた取組、新たな課題の有無等を聴き取り、事業者の意向に応じて輸出訪問診断、ビジネスパートナーマッチング等のGFP登録者サービスの活用を含めたフォローアップを実施。

また、輸出に向けた人材不足の課題に関しては、プロフェッショナル人材戦略拠点と連携した人材確保のサポートを実施。



<テーマ（課題）と専門家（参加会場A・B・C）>

①「賞味期限延長」への対応

・一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ

代表理事 広田 鉄磨 氏（ABC）

②「品質管理・認証取得」への対応

・株式会社TODIRECT

代表取締役 武部 方貴子 氏（ABC）

③「販路開拓」や「商社等とのネットワークづくり」

・株式会社クロスリーチ コンサルティング事業部
・ワオラボ株式会社
・栄光堂商事株式会社
・株式会社スターエクスプレス

シニアマネージャー 伊藤 尚峰 氏（AB）
代表取締役 小粥 おさ美 氏（AC）
執行役員統括本部長 安藤 貞敏 氏（A）
代表取締役 山内 慎一郎 氏（A）

・国分グループ本社株式会社 海外統括部貿易事業部

部長 中川 典子 氏（A）
営業二課課長 尾園 拓哉 氏（BC）
グループ長 野々部 正彦 氏（BC）
代表取締役 後藤 大輔 氏（B）
稲上 芳郎 氏（AB）

・株式会社萌す

・ジェトロ大阪本部海外ビジネス推進課

<相談会で挙げられた主な課題及び専門家からの助言の例>

①「賞味期限延長」への対応

（課題）賞味期限の延長方法がわからない。

→障害要因を分析し、原料・配合・包材を変更することで対応可能。

→日本と海外における食経験の違いによる官能評価基準の差を認識し、輸出先に適した賞味期限を設定することで対応可能。

②「品質管理・認証取得」への対応

（課題）認証取得に係る資金や人員の負担が大きい。

→設備の改善は必要だが、リスクを低減できれば資金を抑えて取得することは可能。

③「販路開拓」や「商社等とのネットワークづくり」

（課題）有効な訴求方法がわからない。

→商品の物語（開発までの流れ、文化や歴史）による訴求が重要。ブランディングやネーミングは、現地語ではなく、日本語が有効な場合もある。

（課題）消費者の評価を把握できない。

→自ら販売プロモーション施策を講じることで、商社や現地販売店と良好な関係を構築し、フィードバックを得る。

→SNSで画像や動画を発信し、現地消費者の反応を把握する。

<フォローアップの実施>

各事業者が相談会を活かした輸出への取組を行う中、農政局が取組状況や新たな課題についてヒアリングを行い、GFPの以下の取組を紹介することにより、各事業者に適した支援策を提供。

- ・専門家派遣による国際認証取得のためのギャップ（差分）審査を実施。
- ・海外展示会初出展に向けた助言。
- ・GFP登録事業者（商社・コンサル）との商談。
- ・GFPビジネスパートナーマッチングの実施。

<実施結果（事業報告書、相談会Q&A等）の公表>
(近畿農政局HP)

